

地域(区)における自治の深化に向けて<区民との協働>

区自治協議会とのさらなる協働の推進

2 連携によるまちづくり (1) 区政運営にかかる評価の仕組みづくり

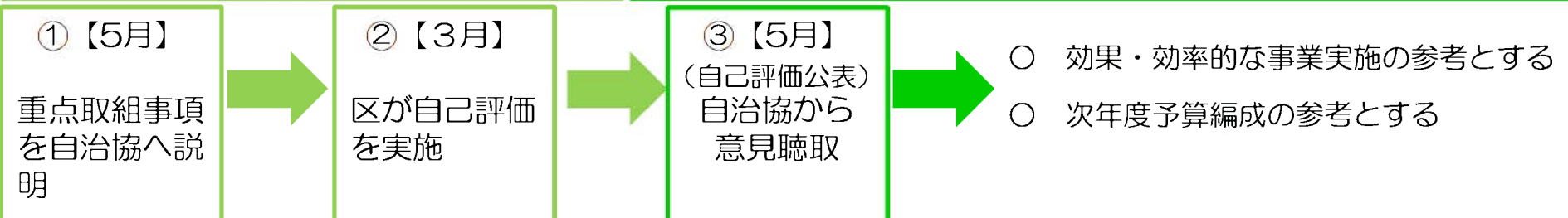
区政運営にかかる評価の仕組み (案)

対象	区の重点取組事項	定義	<p>【評価の定義】区が自ら行う区役所評価の透明性と客観性を高め、今後の区政運営の参考とするため、協働の要である区自治協議会から区の自己評価の妥当性を確認してもらうとともに、必要に応じて改善すべき点などについて意見を聴取する。(参考意見聴取)</p> <p>区自治協議会条例第7条の規定により意見を述べることをもって評価とする。</p>
方法	区の自己評価を補う形で区自治協議会より意見聴取		

スケジュール (案)

現年度 (平成26年度)

次年度 (平成27年度)



平成26年度「南区」経営方針

南区長 八木 弘

経営方針

南区には、豊かな大地の恵み「食と花」と、長い歴史に培われた伝統文化や匠の卓越した技など、多くの宝物があります。これらの宝物にさらに磨きをかけ、発信することが交流人口の増加、活力アップにつながります。

信濃川と中ノロ川が流れる南区は、水害と背中合わせの歴史があり、新潟地震から50周年という節目を迎える中で、東日本大震災などを教訓とした自然災害に対する地域の防災機能の強化が急務です。また、人口減少・超高齢社会に対応した、高齢者対策、子育て支援など、区民が互いに支えあい安心して暮らせる地域をつくる必要があります。

活力アップ、安心な暮らしには、産業の活性化が不可欠です。「農業特区」を活用した新たな農業、食品加工産業の展開とともに、果樹農業の再生を図り、これを雇用の増大、人口減少の抑制に向けた第一歩とします。

これらの「まちづくり」には利便性の高い公共交通の再構築とそれを支える社会資本整備も必要です。

以上の課題に向き合い、住んでよかった・住み続けたい南区づくりに、区民の皆さまとともに取り組み、次のステージ「新たな南区へ」つなげます。

この方針のもと、今年度は以下の4つの事項を重点的に実施してまいります。

- 1 南区の魅力を磨き、発信する「魅せる」まちづくり
- 2 地域で支えあい、誰もが安心して暮らせる、ひととひとが「つながる」まちづくり
- 3 歴史と伝統に支えられた産業を活かし、南区の新たな未来を「創る」まちづくり
- 4 利便性の高い公共交通の再構築と社会資本整備による「住みよい」まちづくり

部区重点取組事項

1 南区の魅力を磨き、発信する「魅せる」まちづくり	
現状と課題	<p>消費者と農業者の交流の場、あるいは農業体験の場を設定し、農産物「食と花」を大いにPRしながら、来て見て買って食して楽しんでいただく取り組みを、6月開園のアグリパークを活用して進める仕組みが必要です。</p> <p>歴史と伝統を誇る白根大風合戦、重要文化財笹川邸などの観光資源、財産を有機的に結合し、南区の魅力をさらに磨きあげて、これを交流人口の増大につなげることも課題です。</p>
課題解決策	<p>農業者と消費者の交流の拠点施設であるアグリパークと連携して、食育・農業体験をはじめとした農村・都市交流に組み込み、南区の魅力を知り、堪能していただくための仕組みづくりを進めます。</p> <p>4～6月のデスティネーションキャンペーンを好機に、南区の魅力・財産を活用し、観光イメージの定着を図るとともに、伝わりやすく分かりやすい情報発信により誘客を図ります。</p>
取組事項	<p>(1) アグリパークと連携した農村・都市交流の推進（地域課 No. 1、産業振興課 No. 1）</p> <p>(2) 農産物・観光資源等の魅力発信（地域課 No. 2、産業振興課 No. 2）</p>
計画	<ul style="list-style-type: none">・南区区ビジョンまちづくり計画・新潟市農業構想・南区観光振興計画（南区観光協会）

計画

- ・南区区ビジョンまちづくり計画
- ・南区方面バス利便性向上施策実施計画
- ・新にいがたまちづくり計画及び新潟市・巻町合併建設計画
- ・橋梁長寿命化修繕計画

自己評価

公共交通プラン策定については、市街地の循環バス導入といった具体的な施策を盛り込んだプランを策定しました。

道路・橋りょうについては、地元調整などをきめ細かにを行い、順調に事業を進めることができましたが、上半期発注率は目標を達成できませんでした。

(1) 南区の公共交通体系の再構築に向けたプラン策定

○改善プランの策定：区民の移動目的に合った交通結節点機能という新たな視点を入れ、市街地の循環バス導入といった具体的な施策を盛り込んだプランを策定しました。

(2) 道路・橋りょうの計画的な整備・維持補修

○中央環状道路整備事業促進に向けた関係機関協議，地元説明：関係機関とともに，精力的に地元説明を行い，事業進捗を図りました。

○国道8号バイパス供用に向けた国・地元調整：きめ細かに対応し，部分供用に結びつけることができました。今後は4車線化整備に向けて，国・地元との調整を積極的に行います。

○道路・橋りょうの計画的整備・維持補修に向けた上半期工事発注率：最終的には97%となるものの，上半期における目標は達成できませんでした。効率的な発注に向けて，スケジュール管理を適正に行い，関係者協議を計画的に進めます。

自己評価	<p>アグリパークと連携した農村・都市交流については、サイクリングイベントでは相應の成果を得ましたが、宿泊者の観光農園への誘客では取り組み不足により全く結果につながりませんでした。一層のアグリパークを核とした取り組みの強化が必要です。</p> <p>農産物・観光資源等の魅力発信については、笹川邸では入館者数目標は達成できませんでしたが、施設PRビデオの活用など、ホームページの魅力アップと合わせて、次年度以降につなげます。</p>
	<p>(1) アグリパークと連携した農村・都市交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サイクリングイベント：春スタンプラリーは準備不足等により、目標の参加者数を大幅に下回る結果となりましたが、秋イベントでは目標には達しなかったものの、多くの参加者に満足していただきました。 ○アグリパーク宿泊者の観光農園への誘客：PR不足、取り組み不足により、全く所期の目標を達成できませんでした。両者の共存共栄、相乗効果による農村・都市交流を図るために取り組みを強化します。 <p>(2) 農産物・観光資源等の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○笹川邸：入館者数は前年度を上回る見込みであるものの、目標達成はできませんでした。制作した施設PRビデオの効果的な活用とともに、「食」を前面に出した春夏秋冬楽しめる笹川邸をつくります。 ○観光ホームページ：随時更新を行い、アクセス数の増加にもつながりました。さらに魅力的な情報を発信し、交流人口の増加を図ります。

2 地域で支えあい、誰もが安心して暮らせる、ひととひとが「つながる」まちづくり	
現状と課題	<p>災害発生時には、地域住民相互の助け合いや協力、「自助」、「共助」、「近助」が重要であり、そのための地域防災力の向上が求められています。</p> <p>また、ハード面では雨水対策の促進が不可欠です。</p> <p>人口減少・超高齢社会への対策も、地域の安心安全な暮らしのためには喫緊の課題です。各地域における地域力・市民力を活かしながら、区民・地域・行政による協働の取り組みを展開する必要があります。</p>
課題解決策	<p>自主防災組織の実効力を高める一環として、防災訓練など活動の強化を図ります。また、避難所運営マニュアルを作成し、日頃から区民の防災意識を高めます。</p> <p>雨水対策では、県事業である中ノ口川改修の促進について国・県への働きかけを強めるとともに、地域における調整などの役割を果たします。また、白根水道町ポンプ場整備などを推進します。</p> <p>人口減少・超高齢社会への対策として、地域における高齢者の健康で元気な暮らしを支える仕組みづくり、子育て支援、学校との連携を推進します。</p>
取組事項	<p>(1) 地域防災力の強化（総務課 No. 1）</p> <p>(2) 雨水対策ハード整備促進（建設課 No. 1、下水道課 No. 1）</p> <p>(3) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み（健康福祉課 No. 1）</p> <p>(4) 子育て広場の展開（健康福祉課 No. 2）</p> <p>(5) 地域と学校の連携（地域課 No. 3）</p>
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・南区区ビジョンまちづくり計画 ・新潟市地域防災計画 ・新にいがたまちづくり計画及び新潟市・巻町合併建設計画 ・南区地域福祉アクションプラン

自己評価	<p>防災、水害対策、地域と学校の連携については、目標をおおむね達成することができました。</p> <p>地域包括ケアシステム構築、子育て広場開催については、目標には達していないものの、次年度以降につながるベースはできつつあるものと考えています。</p>
	<p>(1) 地域防災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市推奨訓練の導入：22自主防災組織中21組織で導入。目標は全組織の導入でしたが、ほぼ達成できました。 ○避難所運営マニュアル作成：避難所48施設中46施設で完成。目標24箇所を大きく上回りました。 <p>(2) 雨水対策ハード整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中ノロ川堤防等県改修工事にかかる地元説明：県説明会に積極的に参加し、地元と県の調整を行いました。 ○浸水整備事業進捗：白根水道町ポンプ場工事は順調に進んでいます。 <p>(3) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地域における事業計画立案支援：計画立案には至りませんでした。仕組みづくりに向けた必要性の浸透など意識醸成が図られました。 ○ウオーキンググループの組織化とリーダー育成：目標3地区でグループが発足、自主的な健康づくりの取り組みが始まっています。 <p>(4) 子育て広場の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て広場の開催：支援リーダー数が不足し、開催数は目標に達しませんでした。多くの参加者から好評をいただいています。 <p>(5) 地域と学校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの意見を反映した地域と学校をつなぐ事業の展開：全コミ協において地域性を活かした、郷土愛を育む事業に取り組みました。

3 歴史と伝統に支えられた産業を活かし、南区の新たな未来を「創る」まちづくり	
現状と課題	<p>「農業特区」指定のメリットを発揮した、食品加工産業の誘致・創業や農業の6次産業化につながる仕組みづくりが求められています。</p> <p>南区農業「食と花」の代名詞・根幹である果樹園の廃園防止対策も急務です。</p> <p>また、商業の中心である白根地区商店街の元気を取り戻し、地域商業の拠点として強化する必要があります。</p> <p>これらを雇用の増大、人口減少の抑制につなぐ端緒とします。</p>
課題解決策	<p>「特区」を活かし、農産物を基盤とする食品産業の誘致・創業、展開の拠点となるニューフードバレー拠点の整備に向けた調査・分析を行います。</p> <p>農業活性化研究センター、食品加工支援センターと連携した農産物の高付加価値化、農業の6次産業化を推進します。</p> <p>果樹園廃園防止対策として、一般の労働力を募り、果樹農家に提供するモデル事業を実施します。</p> <p>南区まちなかの活性化に向けて、地域拠点商業活性化推進事業計画に基づき、商店街の活動を支援します。</p>
取組事項	<p>(1) ニューフードバレー拠点整備、農産物の高付加価値化・農業の6次産業化 (産業振興課 No. 3)</p> <p>(2) 果樹産地の活性化 (産業振興課 No. 4)</p> <p>(3) まちなか活性化 (産業振興課 No. 5)</p>

計画	<ul style="list-style-type: none"> ・南区区ビジョンまちづくり計画 ・新潟市農業構想
-----------	---

自己評価	<p>おおむね目標を達成しています。今後は農業、食品産業、商店街など産業の活性化と雇用の創出に結びつくように、計画の具体的な実施に力点をおいていきます。</p> <p>(1) ニューフードバレー拠点整備、農産物の高付加価値化・農業の6次産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業誘致・創業支援方針の策定：企業ニーズ調査を実施し、その結果をもとに方針を作成しました。これにより次年度以降具体的な企業誘致活動を行います。 ○6次産業化研修会開催：先進地研修、懇談会を開催、今後の本格的な事業展開に向けた準備ができました。 <p>(2) 果樹産地の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果樹作業パート、利用農家の確保：目標には若干とどかないものの、一定の確保ができています。成果を検証しながら一層の充実を図り、事業の幅広い展開につなげます。 <p>(3) まちなか活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域拠点商業活性化推進事業計画の策定、アドバイザー活用：アドバイザーの活用により、計画を策定しました。次年度以降、計画の具体的な実施に向けて、商店街を支援します。
-------------	--

4 利便性の高い公共交通の再構築と社会資本整備による「住みよい」まちづくり	
現状と課題	<p>南区には軌道系の公共交通機関がなく、また、集落が点在している地勢から、効率的な交通システムの構築が困難です。</p> <p>地域の生活交通においては、公共交通の運行コストが高く、便数の少ないバス等では利便性が低いのが現状です。</p> <p>都心アクセス面でも便数の少ない路線バスや自家用車に頼らざるを得ない状況です。近隣駅へ距離があることやアクセス路線の渋滞などで、定時性・速達性に問題があります。</p> <p>また、利便性の高い公共交通体系の構築には、道路、橋りょうなど社会資本整備も欠かせない要素です。</p>
課題解決策	<p>区バスをはじめとした生活交通のあり方と、BRT導入や国道8号バイパス供用に伴う都心アクセスの利便性向上に向けた方策について、効率性も考慮しながら区の地勢的な特性に沿ったものに再構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の生活交通… 区バスと乗合タクシーを組み合わせた、新たな運行形態の構築 ○都心アクセス… 区バスによる近隣駅との連結強化、新潟市中央部方面とともに南部軸（三条・燕・加茂方面）も加えたバス路線の再編 ○乗換拠点… 定時性、速達性、効率性の観点からの乗換拠点の必要性 <p>中央環状道路や国道8号などの道路・橋りょうインフラの計画的な整備により、公共交通など「まちづくり」を支えます。</p>
取組事項	<p>(1) 南区の公共交通体系の再構築に向けたプラン策定（地域課 No. 4）</p> <p>社会実験やアンケート調査、BRT導入やバイパス供用、さらに乗換拠点の検討を踏まえた生活交通、都心アクセスにかかる総合的・包括的な公共交通体系の再構築にかかるプランの策定</p> <p>(2) 道路・橋りょうの計画的な整備・維持補修（建設課 No. 2・3・4）</p>

重点取組事項管理シート(平成26年度「南区」)

※各課組織目標管理シートから重点取組事項に該当する項目を抜粋したものです

1 南区の魅力を磨き、発信する「魅せる」まちづくり

No.	重点	視点	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価		
				項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26目標				H26結果	補足・参考指標
1	1	市民(顧客)	アグリパークと連携し、サイクリングイベントを通して、南区の魅力を周知、堪能していただくための仕組みづくりを進めます。	イベント参加者数	-	-	-	600人	165人	・スタンブラー応募者目標数 400人 ・秋のサイクリングイベント参加者目標100人 ・アグリパーク発着のサイクリングイベント参加者目標100人	・区内主要文化観光施設を巡るスタンブラーの実施 ・秋の南区イベントの開催に合わせたサイクリングイベント(しっかり走り型)の実施 ・南区の恵みを味わいながら走る、グリーンツーリズム型のサイクリングイベント(のんびり走り型)の実施	・スタンブラー16人、秋のサイクリングイベントはしっかり走り型99人、のんびり走り型55人の参加がありました。 ・スタンブラーでは入館料の割引措置を設けなかったこと、イベント全体でPR不足、コースの魅力不足などで未達成となりました。	未達成
2	1	市民(顧客)	笹川邸の情報発信や活性化事業による誘客に取り組み、入館者数の増加に努めます。	入館者数	6,715人	8,695人	5,024人	9,000人	5,700人(見込み)		・大学サークルによるミニコンサートや寄席などのイベントのほか、こどもたちによる施設ガイドや郷土料理弁当の販売、神楽舞といった地域の活動との連携	・入館者数は前年度に比べて680人程度増加となる見込みですが、イベントの集客力や施設の魅力が不足し、未達成となりました。	未達成
3	1	市民(顧客)	アグリパークと連携して、農村・都市交流を推進し、交流人口の増加を図ります。	アグリパークの宿泊者が観光農園等に訪問した割合(%)	-	-	-	35%	1.5% (3/20時点の暫定値)	アグリパーク宿泊者数は、学校など子ども主体の団体利用を除いて算出。当初1部屋1枚を3月のみ限定で1人1枚に拡充	・アグリパークを拠点とする農業体験プログラム(宿泊プラン)の作成。 ・県外での南区PR活動	・宿泊利用者に観光農園の魅力や満足感を感じさせることができなかった。 ・宿泊者への優待券の配布数 200枚のうち宿泊優待券の利用3枚(現在までの一般宿泊利用者 2,085名)	未達成
4	1	市民(顧客)	南区の農産物や観光資源を活用し、観光イメージの定着を図るとともに、効果的な情報発信により誘客を図ります。	観光協会ホームページの更新回数(回)	-	-	-	12回	24回		・魅力ある写真の掲載や動画、ブログの検討 ・南区魅力満載のPR(旬な農産物、特産品、観光資源など)	・ホームページの修正更新 7回(ページ) ・主なイベント情報の更新 17回 ・アクセス数 H25 46,821件 H26 50,422件 3,601件の増加	達成

2 地域で支えあい、誰もが安心して暮らせる、ひととひとが「つながる」まちづくり

No.	重点	視点	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価			
				項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26目標				H26結果	補足・参考指標	
1	2	市民(顧客)	地域住民との協働で、安心できる安全なまちづくりを進めます。	自主防災組織の防災訓練に市推奨訓練を導入する(%)	-	-	75	100 (22/22)	95 (21/22)	区内12コミ協 22自主防災会 指定避難所48箇所	・コミ協単位の自主防災訓練に市推奨訓練を導入 ・訓練に対する支援・助言	・コミ協単位の自主防災訓練では11コミ協すべてで推奨訓練を実施した。 ・すべての自主防災会に市推奨訓練導入の働きかけを行ったが、1地区の自主防災訓練では訓練内容の検討段階で訓練会場の都合などにより、推奨訓練を行わなかった。	未達成	
				避難所運営マニュアルを地域・施設管理者・行政協働で作成(%)	-	-	0	50 (24/48)	96 (46/48)		・マニュアル作成にあたって休止中の避難所1か所を除く(4か所の避難所を対象に)の説明会(ワークショップ)を開催し、46の避難所でマニュアルが完成した。	・マニュアル作成にあたって休止中の避難所1か所を除く(4か所の避難所を対象に)の説明会(ワークショップ)を開催し、46の避難所でマニュアルが完成した。	達成	
2	2	市民(顧客)	新潟県施工の中ノ口川の計画堤防高不足区間の堤防嵩上げ工事(暫定形)及び河道掘削の促進を働きかけます。	県・地元調整などの回数	-	-	6回	6回	9	11	・高井橋～塩俣橋間の堤防整備 ・高井橋下流の河道掘削	・自治会要望などを細かく聞き取り、県へ地元調整及び工事打合せを行い、地元調整役として中ノ口川堤防の用地補償、堤防嵩上げ、河道掘削の促進を図ることができた。	・地元からの苦情・要望を聞き取り、県と共に地元調整及び工事打合せを行い、地元調整役として中ノ口川堤防の用地補償、堤防嵩上げ、河道掘削の促進を図ることができた。	達成
3	2	市民(顧客)	南区の農産物や観光資源を活用し、観光イメージの定着を図るとともに、効果的な情報発信により誘客を図ります。	観光協会ホームページの更新回数(回)	-	-	-	12回	24回		・魅力ある写真の掲載や動画、ブログの検討 ・南区魅力満載のPR(旬な農産物、特産品、観光資源など)	・ホームページの修正更新 7回(ページ) ・主なイベント情報の更新 17回 ・アクセス数 H25 46,821件 H26 50,422件 3,601件の増加	達成	
4	2	市民(顧客)	地域包括ケアシステム構築に向けた取組みを推進します。	各地域における具体的な実施事業計画立案の取組み	-	-	-	5地区 (12コミ協中の40%)	0地区	高齢者を地域で支えるモデル事業で2地区を支援	・各地域の目指す方向性や具体的な事業計画を支援する。	・目標は達成できなかったが、講演会の開催や座談会等により、地域住民の高齢者を見守る意識醸成が図られた。また、各コミ協においても高齢者を支える仕組みづくりの必要性が浸透したが、ノウハウ不足等により事業の計画立案にまで至らなかった。	未達成	
				地域の自立に向け、育成リーダーが中心となり活動するコミ協	-	-	-	3地区	3地区	(実施地区)庄瀬、大通、白根	・いきいき長生き健康づくり講座の参加者を中心として、ウォーキンググループの組織化とリーダーを育成する。	・大通、白根地区で自主グループの発足 ・又次年度コミ協主催による取り組みが予定されている。	達成	
5	2	市民(顧客)	子育て中の保護者を応援し、子育ての不安の解消を図ります。	子育て支援リーダーによる子育て広場の開催回数(回・人)	-	-	9 (203)	24 (500)	20 (495)		・特色ある区づくり事業「地域で子育てを応援」による子育て広場の開設。	・昨年度より1か所多く5会場での開催であったが、子育て支援リーダー不足で定期的に子育て広場を開催できなかった会場があったため、目標を達成することができなかった。参加者からは「リフレッシュできた」「また参加したい」と好評であった。	未達成	
6	2	市民(顧客)	コミュニティ協議会と学校が連携した事業を支援することで、世代間の交流、伝統文化の継承、子どもたちの郷土愛を育み、子どもたちを中心に、地域と学校のつながりを深めます。	子どもたちの意見を反映した事業実施	-	-	-	75%以上 (9/12)	100% (12/12)		・茨曾根地区の「世代間交流事業」、小林地区の「地区民運動会」、大通地区の「子ども秋まつり」、白根地区の「しろねふゆまつり」など各地域での事業実施	・区内全12コミ協から、地域性を生かし、郷土愛を育むさまざまな事業に取り組んでいただきました。	達成	

3 歴史と伝統に支えられた産業を活かし、南区の新たな未来を「創る」まちづくり

No.	重点	視点	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価			
				項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26目標				H26結果	補足・参考指標	
1	3	市民(顧客)	南区の農産物を基盤とする食品産業の誘致や創業の支援を通して、雇用の増大と定住人口の増加につなげます。また、第1次、2次、3次産業の各主体が協力して、地域資源(農畜産物)を活かした商品開発や新しいビジネスの創造を目指します。	企業誘致・創業方針の策定	-	-	-	方針策定	方針策定	3	3	・企業ニーズ調査の実施 ・JA、商工会、企業、農業者、行政などが一体となって推進 ・農業活性化研究センター、食品加工支援センターとの連携	・ニューフードバリエーション推進事業 ・地産地消の推進(料理屋、レストラン、学校給食など) ・8月に推進事務局を発足し、先進地研修を2回、農業者懇談会を1回開催し、次年度本以降の本格的な事業展開に向けた準備を実施。	達成
2	3	市民(顧客)	果樹栽培農家の高齢化や担い手不足などによって増加傾向にある廃園を防ぎ、県下トップの果樹産地としての地位を守ります。	果樹作業パート及び利用農家の確保(人、戸)	-	-	19 利用農家 27	30 利用農家 50	23 利用農家 48	平成25年度果樹産地活性化計画策定	・南区農業振興公社委託 ・果樹作業パート事業の実施 ・新規就農支援、規模拡大支援の園地情報提供、就農相談員の設置	・平成26年度の果樹作業パートで継続希望者15人。平成27年度新規希望者は30人の応募があったが、採用は9人の予定。今後追加募集を実施。 ・利用農家はほぼ見込どおりであるが、繁忙期のパートが不足する懸念がある。	未達成	
3	3	市民(顧客)	南区の拠点商業地である白根地区商店街の元気を取り戻し、まちなかの活性化を図ります。	地域拠点商業活性化推進事業計画の策定及び推進のためのアドバイザー活用回数(回)	-	-	-	6回	6回		・南区拠点商業活性化検討委員会の開催(年6回程度) ・アドバイザー派遣事業の活用	・南区拠点商業活性化検討委員会において、外部有識者委員として5回出席 ・活性化研究会(1回)において、2人の講師を依頼	達成	

4 利便性の高い公共交通の再構築と社会資本整備による「住みよい」まちづくり

No.	重点	視点	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価		
				項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26目標				H26結果	補足・参考指標
1	4	市民(顧客)	南区に合った効率的な生活交通のあり方について調査・研究を進め、基本方針に沿った施策について、住民意見を踏まえた協議を行い、利便性の高い公共交通体系の構築を目指します。	生活交通改善プランの策定	-	-	-	改善プラン策定	改善プラン策定		・平成27年度からの新バス交通システム導入や、バス供用等を踏まえて、交通結節点の設置の具体的検討と、結節点と整合性のとれた公共交通の改善についての検討	・平成27年度からの新バス交通システム導入や、バス供用等を踏まえて、交通結節点の設置の具体的検討と、結節点と整合性のとれた公共交通の改善についての検討	達成
2	4	市民(顧客)	中央環状道路の事業促進を図ります。	関係期間協議、地元説明会などの回数	-	-	-	20	31	・国道8号～49号間の新規事業化区間について早期の事業進捗を図る。	・事業進捗を図るため、西部地域土木事務所と連携を密にし、地元説明会、関係機関協議などを積極的に行います。	・西部地域土木事務所と共に地元説明会11回、関係機関協議など13回行い、事業進捗が図れた。今後も西部地域土木事務所と連携し、円滑な事業進捗に努めます。	達成
3	4	市民(顧客)	国道8号のバイパスの早期供用、4車線化に向け働きかけ地域の交通の利便性向上、産業・経済の活性化を図ります。	国・地元調整などの回数	-	-	-	15	23	・国道8号バイパスのH26部分供用	・自治会要望などを細かく聞き取り、国へ部分供用となった。今後も全線供用、4車線化に向け強く働きかけます。	・国・地元調整などを細かく行い3月22日に部分供用となった。今後も全線供用、4車線化に向け強く働きかけます。	達成
4	4	業務改善	道路・橋りょうの計画的な整備・維持補修に努め住みよいまちづくりに努めます。	上半期(4月～9月)の工事発注率(工事費ベース執行率)	-	78	79	80	57	・上半期発注率	・定期的に執行管理と発注計画の確認・点検を行います。	・関係者協議が遅れたことなどにより、上半期の発注率は57%の執行率で、最終的には97%の見込みとなりました。今後も、効率的な執行体制を整え、住みよいまちづくりに努めます。	未達成